

安全運転のヒント

どんなドライバー用のマニュアルでも、車両の操作方法や、安全なドライバーになる方法を教えることはできません。運転には、指示や練習からしか得られない運転技能が必要です。運転の基本的な情報を次に示します。

発進

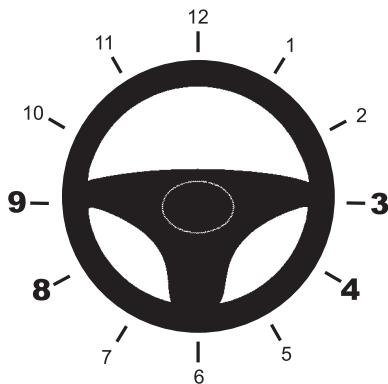
操作マニュアルを参照して、最適な発進方法を確認します。車両を動かす前に、サイドブレーキがかかっていることを確認します。マニュアルトランスマッションの車両では、ギアが入っていないことを確認します。車両の種類によっては、クラッチを踏まなければならないものもあります。オートマチックの車両では、シフトが「パーキング」に入っていなければなりません。

アクセル

徐々に、滑らかに加速してください。急に加速して車両を動かそうとすると、タイヤがスピンし、特に路面が濡れているときは横滑りの原因となります。マニュアルの車両では、ギアをシフトする際に、エンジンが加速しすぎたり、エンストしないようクラッチとアクセルのかみ合いを練習してください。

ハンドルの切り方

ハンドルの両側に両手を乗せてください（左手は8時と9時の間、右手は3時と4時の間）。この位置は楽で、高速で走行する道路でもハンドルから手を放さずにハンドルを切ることができます。また、エアバッグの妨げにもなりません。ドアにもたれたり、窓からひじを出したり、片手で運転したりすると、非常時にすばやく反応にくくなります。



車両のすぐ前だけでなく、進行方向のずっと先、道路の左右も見ます。到着する前に避けた方がいいような交通状況に注意していると、滑らかに、また安全にハンドルを切ることができます。

急カーブを曲がるときは、「ハンド・オーバー・ハンド」(一方の手の上にもう一方の手が来るよう)のテクニックを使用します。曲がりきつたら、手を添えてハンドルをまっすぐに戻します。手の中をすり抜けるように、ハンドルがひとりでに戻るようにするのは危険です。

スピード違反と制限速度

スピード違反を起こさない一番良い方法は、走行中の速度を把握していることです。速度計を頻繁に確認しましょう。走行中の速度を判断するのは困難で、考えているよりも実際の速度は速くなるのが普通です。特に、高速で走行する道路から、低速で走行する道路に進入したときに、よく見られます。

制限速度の標識に従ってください。制限速度の標識は、あなたの安全を守るもので。他に指示する標識がない場合、下記のように制限速度を適用してください。

- スクールゾーンでは、時速 20 マイル
- 市や町の中の通りでは、時速 25 マイル
- 郡道では、時速 50 マイル
- 州のハイウェーでは、時速 60 マイル
- インターステートハイウェー（州連結高速道路）のいくつかの区域では、これより高い制限速度の標識がある場合があります。

停止

停止する必要があることが、十分早くわかるよう、常に状況に注意します。急停車は危険であり、注意を怠っているドライバーがよく急停車しています。ブレーキを急に踏むと、タイヤが滑って車両をコントロールできなくなります。また、後続車があなたの車両に追突せずに停止するのが非常に困難になります。

十分早めに状況を判断し、急停車は避けます。減速または車線変更すれば、停止する必要がないかもしれませんし、もし停止する必要がある場合は、より緩やかで安全に停止することができます。

良く見えること

運転中に何をするかは、何が見えるかによります。良いドライバーになるには、周囲をよく見なければなりません。視界がさえぎられたり、車両のコントロールの邪魔になるようなら、前部座席に3人よりも多くの人を乗せて運転してはいけません。衝突事故の最大の原因是、何が起こっているか見ることを怠ったからです。車両の前方、左右、後方をよく見て、予測しないことが発生するかもしれない注意しておきます。夜間や、周囲がよく見えないときは、ヘッドライトを付けなければなりません。

常に、あなたの周囲で何が起きているか、注意を払わなければなりません。多くの衝突事故は、ドライバーが運転に十分注意を払っていないことが原因です。一回に2-3秒以上道路から目を離してはいけません。地図を見る必要があれば、安全を確認して道路の脇に車両を寄せてからにします。運転中には、地図を見てはいけません。自動二輪車、自転車、歩行者の関わる事故を起こしたドライバーは、目を向けてはいたが、実際にはそれらが見えていなかったと言っています。

携帯電話やCB無線機を所持していても、車両が動いている最中は、その使用を避けます。「ハンドフリー(両手が自由)」の機器であっても、電話や無線機で会話をすると運転に払うべき注意が散漫になり、危険な状況が見えにくくなります。

両耳を覆ったり両耳に入るヘッドホンやイヤホンを使用してはいけません。これは、ワシントン州及びその他の多くの州で違法行為であるだけでなく、緊急車両のサイレンやクラクションが聞こえにくくなります。この法規は、ヘッドセットやイヤホンが組込まれたヘルメットをかぶっている自動二輪車や、ハンドフリー携帯電話システムには適用されません。

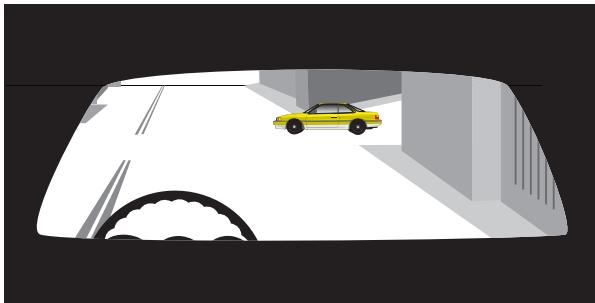
事故現場、違反切符を切られているドライバーや、その他道路脇の出来事を見ようとして減速してはいけません。このような行為により、事故になる恐れがあります。何かを見ようと道路から目を離すと、前の車が減速または止まった所へ追突する可能性があります。また、渋滞がひどくなる恐れもあります。道路脇で上記のような事態が発生しても、道路から目を離さずに、できるだけ早く、また安全にその場を離れるようにします。

スキャンする（さっと見る）

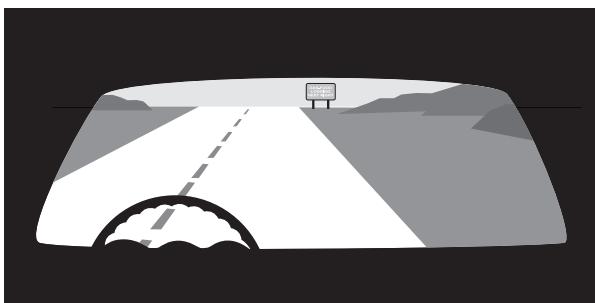
良いドライバーになるには、あなたの車両の周囲で何が起こっているかを認識していかなければなりません。前方、左右、後方をよく見なければなりません。スキャンすることで、前方で起こっている問題や、あなたが現在地から到達するまでの間に前方を通行する可能性のある車両や歩行者、また、前方に問題があることを示す標識や行き先を示す標識などが見やすくなります。

前方を見る - 最後の瞬間にブレーキを踏んだり、曲がったりするのを避けるため、前方を良く見る必要があります。十分先を良く見て、停止や車線変更する用意ができていれば、より安全に運転できる上、ガソリンの節約ができ、一定の速度で交通が流れるようにでき、車両の周囲や道路脇の状況をよく見ることができます。また、ジグザグ運転を避け、真っ直ぐ走行しやすくなります。安全運転を行なうドライバーは、現在地の少なくとも 10 秒先を視界にいれる傾向にあります。距離でいうと、現在地から 10 秒後にあなたが走行する地点までの距離となります。

市内では、10 秒は 1 ブロックに相当します。市内を運転するときは、少なくとも 1 ブロック先が視界に入っているようにしてください。ハイウェーでは市内の 4 ブロック相当、または 1/4 マイルとなります。



市内で 10 秒先を見る。



ハイウェーで 10 秒先を見る。

何秒先が視界に入っているかを知るには、次の事柄を実行してみてください。

1. あなたの見ている前方と同じ位の距離の離れた道路脇の標識や電柱など、静止している物体を見つけます。
2. その物体に到達するまで one-one-thousand、two-one-thousand、three-one-thousand のように数えます。
3. 数えた秒数は、何秒先を見ていたかに相当します。

よく前方を見ておくことにより、より安全に運転ができます。急停車や急な方向転換を避けることができるるので、衝突したり、衝突されたりする確率がより低くなります。

前方をよく見ておくと、ガソリンの節約にもなります。急停車するごとに、元の速度に戻るために時間とガソリンが必要になるからです。前方をよく見るドライバーなら、徐々に減速や車線変更を行なって、急停車による 1 ガロンあたりの走行距離の低下を避けることができます。

ドライバー全員が前方を良く見れば、交通の流れはスムーズになります。早めの減速や車線変更などをして、後続のドライバーは反応するのに少し長い時間かけることができます。より早目に行動をとつておけば、後続のドライバーが、あなたの車両の動きに即座に反応する必要が減少します。このように、必要な行為を早めに知ることで、より安全に運転ができる上、後続のドライバーの安全運転にも役立ちます。

左右を見る - いつ他の車両や歩行者、自転車が、あなたの進路を横断または進入してくるかはわからないので、誰も横から進入してこないか、左右をよく見ます。交差点や踏切では特に注意します。

交差点 - 交差点とは、交通が合流したり、交差する場所を指します。これには、交差する道路、歩道、ドライブウェー、ショッピングセンターまたは駐車場入り口などがあります。交差点に進入する前に、左右を見て車両、歩行者、または自転車が接近して来ないか確認します。停止している状態からは、前進する前に左右をよく見ます。進行方向の前方に、車両や歩行者がいないことを確認してから前進すると、停止しなければならない場合に、交通の流れを妨げずにつみます。

対向車線を越えて左折する前に、最低 100 フィート手前で左折の方向指示器をつけます。対向車の交通の途切れが、安全に左折するために十分であることを確認します。左折して進入する道路を見て、車や歩行者、または自転車がないことを確認します。左折の前に、もう一度対向車線の方を見ます。

右折の前には、最低 100 フィート手前で右折の方向指示器をつけます。左側から接近する車両などがないこと、対向車が、あなたの進入する道路に左折して進入してきていないことを確認します。右折しようとしている場所を横断する歩行者がいないことを確認するまで、右折を始めではありません。一旦停止の後、禁止されていなければ、赤信号でも右折してかまいません。また、禁止されていない限り、一方通行路または両方向道路から一方通行路へ左折してかまいません。

信号や標識が、前方を横切る車両や歩行者がいないと示していても、それを当てにしてはいけません。ドライバーの中には、信号や標識に従わない人もいます。交差点では、他が赤信号や一旦停止の標識があつても、必ず左右を確認します。

特に赤信号が青に変わったときに、交差する道路のドライバーには信号が赤に変わる前に急いで交差しようとする人もいるので、この左右の確認が大切です。この他、飲酒運転や薬物の影響下での運転、あるいは無謀な運転をするドライバーも停止しないことがあります。

交差点に進入する前に、交差する道路の交通状況がよく見えることを確認します。停止していて、交差する道路が何かにさえぎられてよく見えない場合、見えるようになるまで、ゆっくりと前方に少し移動してください。ゆっくり移動すると、交差する車両のドライバーからあなたの車両が、あなたからそのドライバーが見えるよりも先に見えるようになります。こうすると、交差するドライバーが減速したり、あなたに警告したりできます。

道路沿いに大勢人がいるときは、その中の人が道路を横断したり、道路に出たりすることが考えられます。そのため、ショッピングセンター、駐車場、工事現場、人通りの多い歩道、遊び場や運動場の近くでは、左右の確認が大切です。

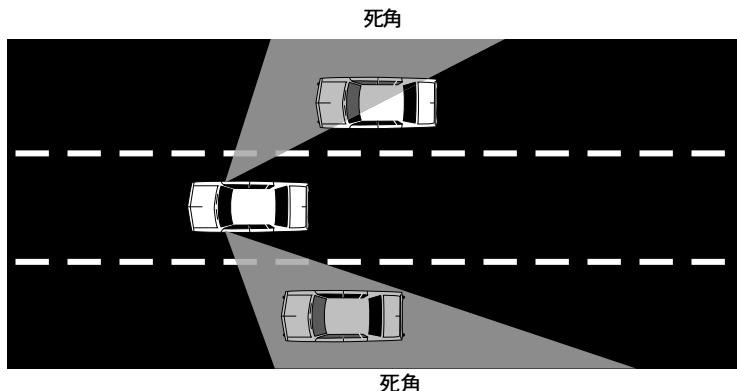
踏切 - 踏切に近づいたら、減速して、どちらの方向からも電車が接近していないことを確認します。その踏切で電車が通るのを一度も見たことがなくても、電車が来るものだと思ってください。このような思い込みは踏切での死亡事故の、主な原因の 1 つです。踏切を渡るのが安全かどうか、確かでないときは、ラジオを消す、ボリュームを低くする、会話を中断する、窓を開けて電車が来るか目や耳で確認するなどをします。踏切の向こう側に十分スペースがあることを確認してから、踏切を渡ります。

複線の踏切では、通過中の電車が踏切から十分離れるまで、踏切に進入するのを待ちます。通過中の電車の陰に別の電車が隠れて、接近するのが見えないことがあります。

後方を見る - あなたの車両の前方を見るだけでなく、後方にも注意します。交通量の多いときは、より頻繁に後方を見てください。こうすれば、車間距離を十分取らずに後続する車両や、後方から急速に接近する車両があるかどうかわかり、また、それに対して、取るべき措置を考える時間を持てます。車線変更、減速、バック（後進）する場合、また長い坂や急な坂道では、特に、後続車に注意が必要です。

車線変更 - 車線変更をする際は、進入先の車線に車両がないことを、確認しなければなりません。つまり、車線変更の前に、あなたの車両の横と後方を必ず確認しなければなりません。車線変更とは、1つの車線から別の車線に移ること、入り口ランプから道路に合流すること、歩道の縁や路肩から車道に進入することなどを意味します。車線変更時には、次のことを行います。

- 移動する方向の方向指示器をつけます。
- バックミラー、サイドミラーを使用します。あなたが進入しようとしている車線に車両がないこと、誰もあなたを追い越そうしていないことを確認します。
- 移動先の車線を肩越しに見ます。車両の後方の角に、誰もいないことを確認します。これはミラーでは見ることができないため、「死角」と呼ばれています。死角に入っている車両の有無を確認するには、首を回して、見なければなりません。



- すばやく確認します。前方の道路から目を離すのは、一瞬だけにします。あなたが前方から目を離して左右、後方、肩越しに見える車両を確認している間に、前方の車両が急停車することがあります。また、車線変更、合流、あるいは道路脇から車道に進入する準備をしながら、ミラーで交通の流れを確認します。こうすれば前方の車両にも、同時に注意を払うことができます。車線変更をする直前に、肩

越しに死角を確認します。必要なら、数回確認しますが、一回あたりの時間を取りすぎないでください。常に前方の交通と、変更先の車線の交通の動きを把握しておかなければなりません。

- 離れた車線に注意します。3車線以上ある場合は、離れた車線も確認します。その車線内の車両が、あなたが移動しようとしている同じ車線に進入してくる恐れがあります。
- その他の道路利用者にも注意します。自動二輪車、自転車、歩行者も道路を通行しており、それらは自動車やトラックと比べて見えにくいことを念頭に置いてください。歩道の縁やドライブウェーから車道に進入する際には、特に注意します。

減速の際 - 減速する際は、常に後続の車両に注意します。急な減速をしたり、ドライブウェーや駐車場など、あなたが減速するとは後続のドライバーが思わないような箇所で減速するときには、特によく注意します。

バックする際 - 後方は見えにくいので、できるだけ少しずつバックするようにします。ショッピングセンターでは、前向きに出られるように、通り抜けのできる駐車用スペースを探すようにします。バックが必要なときは、安全にバックするために次のことを心がけます。

- 車に乗り込む前に、後方を確認します。子供や小型の物体などは、運転席からは見えません。
- 右腕を席の背に回し、後ろを向いて、直接リアウインドウから後方が見えるようにします。車両の真後ろにあるものを見るのに、バックミラー やサイドミラーだけに頼ってはいけません。
- ゆっくりバックします。バックする際は、ハンドルは切りにくいので注意します。歩道を横切るバックや、バックしながら道に入っていくときは、バックの前に一旦停止しなければいけません。左右を見て、歩行者や車両に道を譲ります。
- できれば、車の外に立っている人に手伝ってもらいます。

長い坂道や急な坂道を下る際 - 坂道や山道を下りる際は、ミラーで確認します。急な坂道では、坂を下る車両は速度を増しやすくなります。速度の出過ぎているような大型トラックやバスに注意します。

ライトをつける

法律により、日没後 30 分後から日の出の 30 分前までの間、車両のヘッドライトを点灯させなければなりません。また、通行者や他の自動車が見づらいときは、常にライトを点灯させなければなりません。視界を良くするためにできることを、次にいくつか紹介します。

- 対向車がないときは、ハイビームにします。ハイビームを使用すると、ロービームの 2 倍の距離が見えるようになります。ハイビームは、よく知らない道路、工事現場、または道路沿いに人がいるようなところで使用することが重要です。
- 対向車が 500 フィート以内に接近したら、ロービームに下げます。
- 他の車両を 300 フィート以内で後続している際は、ロービームを使用します。
- 霧が出ているとき、雪や雨の激しいときは、ロービームを使用します。ハイビームの光は、反射し返してギラギラし、更に前方が見えにくくなります。フォグランプがあれば、視界が悪いときはそれを使用してください。

ハイビームライトをつけて対向車が接近してきたら、対向車が通り過ぎるまで、ヘッドライトから目をそらし道路右側を見るようにします。こうすると、対向車のヘッドライトで一瞬目が見えなくなるのを避けることができ、道路の端が見えるので、道路から落ちずに走行を続けることができます。「対抗」して、ハイビームを使用してはいけません。お互いにまぶしくて前が見えなくなってしまうでしょう。

他のドライバーに自分の存在を知らせる

衝突事故は、あるドライバーが別のドライバーを見ていなかった、あるいは他のドライバーが予期しない行為を、あるドライバーがとってしまったために、よく発生します。ドライバーは、他の道路利用者に対して、自分の存在と、次に何をしようとしているかを知らせるのが重要です。

ドライバーの中には、周囲で何が起こっているかに注意を払わない人もいますので、あなたが走行していることを知らせることが重要です。

ヘッドライトをつける-ヘッドライトは夜間の視界を良くしてくれると同時に、周囲に対しあなたの存在を知らせます。視界が悪いときはいつでもヘッドライトを点灯させてください。

- 雨、雪、霧のときは、他のドライバーからあなたの車両が見えにくことがあります。このようなときは、ヘッドライトを使用すると見えやすくなります。ワイパーを使用する時は、ヘッドライトもつけます。
- 外が暗くなってきたら、ヘッドライトをつけます。ヘッドライトをつけるのが少し早めでも、他のドライバーからあなたが見やすくなります。
- 運転中にライトが必要なら、ヘッドライトをつけてください。パーキングライトは駐車している車両専用です。
- 日の出や日没時の太陽を背にして運転しているときは、対向車のドライバーからはあなたの車両が見えにくいかもしれません。そのような時はヘッドライトをつけます。
- 夜間に道沿いに停止するときは、緊急点滅灯とロービームをつけておきます。

クラクションを鳴らす - あなたの方を見ていません限り、その人にはあなたの車両は見えません。クラクションで注意を引くことができます。事故防止に役立つときは、常にクラクションを鳴らします。もし即座に危険につながらない場合は、クラクションを軽く鳴らすだけで十分です。次のような場合に、クラクションを軽く鳴らします。

- 歩行者や、自転車に乗っている人が、あなたが走行中の車線に進入してきたとき
- ある車両を追い越そうとしたら、その車両があなたの車線に進入しようとしたとき
- あるドライバーが注意散漫か、あるいはあなたの車両が見えにくそうなとき
- 前方に何があるか見えにくい場所に近づいたとき。たとえば、急な坂道、急カーブ、または細い路地からの出口

次のような危険な状況では、恐れずにクラクションを大きく鳴らします。

- 子供やお年寄りが歩いたり、走ったり、自転車に乗ったりして道路に出てきそうなとき
- 他の車両があなたに衝突しそうなとき
- あなたが車両のコントロールを失い、誰かに向かってしまっているとき

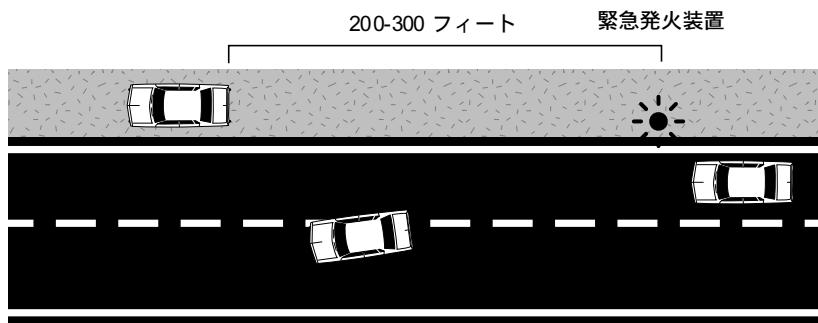
クラクションを鳴らさない - 次のような状況では、クラクションは鳴らさない方が無難です。

- 他のドライバーに加速するよう促したり、道を譲るよう促すとき
- 他のドライバーのミスを知らせるとき
- 友人に挨拶するとき
- 盲人の歩行者の周り
- 自転車を追いこすとき
- 馬に接近しているとき

緊急信号の使用 - ハイウェーあなたの車両が故障した場合は、他のドライバーに必ずそれを知らせます。衝突事故の多くは、他の車両がエンストを起こしたのがわからず、手後れになるまで停止できなかったことが原因になっています。

可能であれば、送受信両用無線機または携帯電話で、緊急対応機関に、あなたの、または他の車両が故障したことを知らせます。道路わきに、緊急連絡時にかけるべき CB チャンネルまたは電話番号を示す標識のあるところが多くあります。車両が故障し、停止しなければならなくなったら、次のように対処します。

- 道路脇に車両を寄せ、走行する車両からできるだけ離れます。
- 緊急点滅ライトをつけ、車両が故障したことを知らせます。夜間には、ヘッドライトもつけたままにしておきます。
- もし道路脇に寄せることができなければ、他のドライバーからよく見える場所に車両を停めるようにします（上り坂を越えた直後や、カーブをすぐ曲がった所には停めてはいけません）。
- 他の道路利用者に、あなたの車両が停めてあることを警告します。車両から 200 ~ 300 フィート後ろの路上に緊急発火装置（緊急用フレア）を置くと、他のドライバーが、必要であれば車線変更できます。



- 緊急発火装置またはその他の警告装置がないときは、道路わきの安全な箇所に立って、他のドライバーがあなたの車両を避けて通過するよう、手を振って合図してください。

- 路上には決して立ってはいけません。車両が走行する車線内にいなければならぬ場合は、タイヤの交換をしてはいけません。
- ボンネットを開けるか、アンテナ、サイドミラーまたはドアのハンドルに白い布をくくりつけて、緊急事態を表示します。

死角を避ける - 他のドライバーからあなたの車両が見えるところを運転し、他の車両の死角になるところは運転してはいけません。

- 他の車両の横やすぐ後ろを運転しないようにします。このような位置は、他のドライバーの死角です。加速するか、減速して他のドライバーからより見えやすい位置に移動します。
- 追い越しをするときは、できるだけ早く、他のドライバーの死角から出ます。他の車両のドライバーの死角に長くいればいるほど、その車両があなたにもたらす危険性が高くなります。
- トラックやバスなどの大型車両の横を長時間走行してはいけません。そのような大型車両の死角は大きいです。

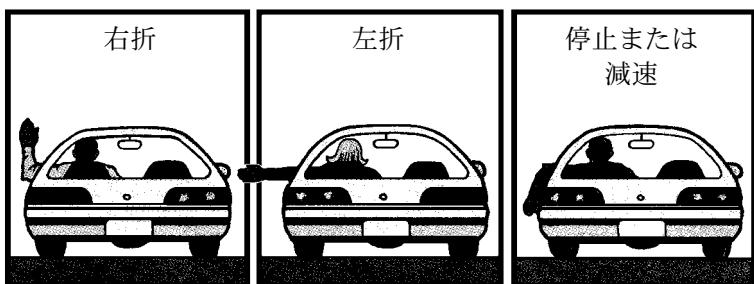
何をしようとしているかを知らせる

一般的に、ドライバーは、他の車両は現状維持の運転をすると思うものです。方向転換あるいは減速する際には、それを警告しなければなりません。これは他のドライバーに必要ならば、反応する時間を与え、あるいは、少なくともあなたの行為で驚かないようにします。

方向転換の際に方向指示器を出す - 方向指示器は、他のドライバーに反応する時間を与えます。車線変更、右折 / 左折、合流、または駐車の前に、方向指示器を出します。

- 方向変換の際は、毎回方向指示器を出す癖をつけます。他に車両が走行していないなくても、方向指示器を出します。あなたが何をしているかを認識する必要がある人に、気付かずに走行してしまうことはよくあります。
- 少なくとも右折 / 左折などをする 100 フィート手前で方向指示器を出します。

- あなたの車両とあなたが方向転換する箇所の間で、他の車両が道路へ進入しようとしたら、その車両を通過してから指示器を出してください。指示器を早く出しすぎると、そのドライバーのいる所であなたが右折や左折をするものと誤解してしまい、あなたの車線に進入してくる恐れがあります。
- 右折 / 左折や車線変更をしたら、方向指示器が消えていることを確認します。方向転換が小さい場合、指示器が自動的に消えないことがあります。このような時は、必ず消します。つけたままにしておくと、他のドライバーは、あなたがまた右折や左折をするものと考えてしまいます。
- 他のドライバーから方向指示器のライトが見えないときは、他のドライバーにわかるように、ハンドシグナルを出します。



減速するときの合図 - ブレーキライトは、他のドライバーに減速することを知らせます。安全を確認して、常にできるだけ早く減速します。他のドライバーが予期しないような場所で減速や停止をする場合は、ブレーキを3、4回軽く踏んで、減速することを後続車に合図してください。

次のような場合に減速するときは、合図をします。

- 右折 / 左折専用車線や出口用車線がない道路で、右折や左折をするとき。
- 交差点のすぐ手前で駐車したり、右折や左折をするとき。後続車のドライバーは、あなたが交差点に進入するものと思っています。
- 後続車からは見えない路上の物体や、停止あるいは減速している交通を回避するとき。

道路の状態に合わせる

速度が出ていればいるほど、方向転換、減速、あるいは停止により長い距離が必要です。たとえば、時速 60 マイルから停止するには、時速 30 マイルのときと比較して 3 倍の距離が必要です。安全運転とは、制限速度を守り、道路や交通状況に合わせることを意味します。

運転していると、安全を維持するために減速しなければならない道路状態が多くあります。たとえば、急カーブの前や、路面が濡れているとき、路上に水溜まりができているときなどは減速しなければなりません。

あなたの車両は、タイヤだけが路面に接触しています。路面に対してタイヤのグリップがよい状態にあるかは、タイヤ及び路面の状態と種類によって変化します。

ドライバーの中には、タイヤや路面の状態にあまり注意を払わない人も多くいます。タイヤの状態がよく、十分空気が入っていることが大切です。車両の操作マニュアルを見て、正しい圧力を調べます。

砂利道や舗装されていない道路では、コンクリートやアスファルトの道路よりも静止摩擦が少なくなります。砂利道や舗装されていない道路を走行するときは、減速しなければなりません。このような道路では、方向転換の際に大変横滑りしやすくなり、停止するのにずっと長い距離を必要とします。

カーブ - 車両は、カーブよりも直線の道路で、より速く走行することができます。カーブでは、速度を出しすぎるのは容易ですが、タイヤが道路をグリップしにくくなるため、車両が横滑りを起こしてしまいます。カーブに入る前にはいつも減速して、カーブで急ブレーキを踏まないようになります。カーブで急ブレーキを踏むと、横滑りを起こす恐れがあります。

路面が滑りやすいとき - 雨、雪、あるいは凍雨が降り出したら、すぐに減速します。このような天候の時は、すべて路面が滑りやすくなります。路面が滑りやすいと、タイヤは、乾いた状態のときとは異なり、路面をグリップしにくくなります。どれくらいゆっくり走行すればいいでしょうか。濡れた路面なら、時速約 10 マイルほど減速します。押し固められた雪の上では、速度を半分に落とします。路面に雪が積もっているとき、および標識で装着が義務付けられている時はいつでも、スノータイヤあるいはチェーンを装着します。路面が凍結しているときの運転は、非常に危険ですので、そろそろと這うように運転しなければなりません。

可能であれば、路面が凍結しているときは、運転しないようにします。ワシントン州および他のいくつかの州では、冬の間、スタッドタイヤの使用が許可されています。

一定の時間や箇所で、路面が滑りやすくなる道路もあります。以下のヒントで、滑りやすい道路を見つけるのに役立ててください。

- 気温が低く、雨や雪の降っている日は、陰になっている場所が凍結しやすいものです。このようなところは、他の場所よりも一番早く凍結し、一番遅くまで氷が溶けません。
- 高架やその他の橋の類には、凍結しやすいスポットがあります。他の舗装道路では凍結していなくても、橋の上の舗装道路はよく凍結します。これは、橋の上の道路は、その下に土壌がないため、寒さに対する保温作用がないからです。
- 気温が氷点に近づくと、氷は溶けはじめて、氷点よりずっと低いときよりも、もっと滑りやすい危険な状態になります。
- 暑い日に雨が降り出すと、最初の数分間、路面はとても滑りやすくなります。熱でアスファルトのオイルが、表面に染み出してくるためです。雨でオイルが洗い流されるまで、路面はとても滑りやすくなっています。

路面に水があるとき - 雨が降っていたり、路面が濡れたりするときは、時速 35 マイルまでは、タイヤの静止摩擦がよく得られます。しかし、速度を上げるにつれ、タイヤはまるで水上スキーのように、溜まった水の表面にあがってしまいます。これは、「ハイドロプレーニング」と呼ばれます。強い雨が降っているときは、時速 50 マイルでタイヤは路面との摩擦を失います。表面がつるつるなタイヤや、擦り減ったタイヤではもっと低速で路面との摩擦を失います。ハイドロプレーニングを防ぐには、雨の中や路面が濡れているときに減速することが最もよい方法です。

タイヤと路面との接触コントロールを失ってしまったと思われたら、次のことを実行してください。

- アクセルの踏み込みを軽くします。
- ハンドルをまっすぐに保ちます。方向転換は、緊急時のみにします。どうしても方向転換しなければならないときは、横滑りを避けるため、ゆっくりと向きを変えます。
- タイヤが再び路面とのコントロールを得るまで、停止や方向転換しません。

交通の流れに合わせる

同じ方向に、同じ速度で、走行している車両どうしが追突することはありません。2台以上の追突事故は、同じ道路を走行中の他の車両よりも、速度が出過ぎているか、または低すぎるときによく発生します。

交通の流れに合わせてペースを保つ - あなたの車両が他の車両よりも速く走行していたら、そのまま追い越しを続けることになるでしょう。しかし、追い越そうとする相手の車両が突然車線を変更したり、2車線の道路で急に対向車が現われたりすることがあります。減速して、他の車両とのペースを保ってください。

他の車両よりずっと低速で走行するのは、速度を出しすぎると同じくらい危険です。後続車が数珠つなぎになり、他のドライバーがあなたを追い越す原因を作ってしまいます。速度を上げるか、低速で走行できるほかの道路を利用するなど、考慮します。追越しは危険な2車線道路で低速度車両を運転している際、5台以上の後続車が数珠つなぎになった場合は、後続車が安全に追い越せる場所で道路の端に停止しなければなりません。

合流して道路に進入する - 合流するときは、方向指示器を出し、道路を走行中の車両と同じスピードで道路に入ります。通常、高速で走行できる道路にはランプがあり、合流に備えて速度を上げられるようになっています。ランプの終わりまで来て停止すると、他の車両の走行速度に達することが出来ません。また、後続のドライバーは、あなたが停止するとは予測しないので、後部に衝突してくるかもしれません。幹線に合流するためのスペースが空くのを待つ必要があれば、合流する前に加速できるよう、ランプの途中で減速します。

幹線道路から出る - 幹線道路走行中は、他の車両の速度に合わせます。その道路に出口ランプがあれば、出口ランプに到達するまで減速してはいけません。高速の2車線道路から出る際は、後続する車両があるときは急に減速しないようにします。ブレーキを軽く踏んでから、速く、しかも、安全に減速します。

低速走行の車両 - 車両には、あまり速く走行できないもの、または他の車両の速度についていけないものもあります。このような車両を早めに察知すれば、安全に車線変更したり、減速したりする余裕ができます。急な減速は、事故の元です。

- 大型トラックや小型の低馬力の車両が、急な坂道を走行していたり、あなたが走行する道路に合流してくる時には、注意してください。長い坂道や急な坂道で、このような車両は、長い坂道や急な勾配の坂道では減速し、合流の際には他の車両の速度に合わせて加速するのに時間がかかります。
- 農耕用トラクター、家畜牽引車、および道路工事用車両は、通常、時速 25 マイル以下で走行します。このような車両の後部には、低速走行車であることを示すステッカー（オレンジ色の三角形）を貼付けていなければなりません。

混雑する場所 - 歩行者や車両が集まるところでは、混雑を回避するスペースも制限されます。以下のようないくつかの場所では、減速する必要があります。

- ショッピングセンター、駐車場、およびダウンタウン - これらの場所は、車両や歩行者が止まったり、前進したり、いろいろな方向に向きを変えたりする、通行の激しいところです。
- ラッシュアワー - ラッシュアワーの間は、交通量が増え、ドライバーはこぞって急ぐようになります。
- 幅の狭い橋やトンネル - 対向する車両との間隔が狭くなります。
- 通行料金支払所 - 車両は車線変更をしたり、停止の準備をし、料金支払後は加速します。支払所を通過する前後は車線の数が変わることがあります。
- 学校、遊び場、および住宅地 - このような場所には子供が多く見られます。子供が左右を確かめずに道路を交差したり、飛び出したり、自転車に乗って道路に進入してくることがあるので、常に注意します。
- 踏切 - 電車が接近していないこと、また踏切を渡るのに十分スペースがあることを確認する必要があります。踏切によってはでこぼこな箇所もあるので、安全に渡るには減速します。
- 工事区間 - 警告標識、旗を使って交通整理を行なう人（フラッガー）、他の車両に注意します。

周囲がどれほどよく見えているか

あなたの走行路になにか障害物があり、停止する必要があったら、停止に間に合うようにそれが見えていなければなりません。停止には、一般に考えられているより、もっと距離と時間がかかります。あなたのタイヤとブレーキが良い状態にあり、路面が乾いているとすると、次のようになります。

- 時速 50 マイルでは、物体に気づき、停止するまでに約 400 フィート必要です。市内のおよそ 1 ブロック間の距離に相当します。
- 時速 30 マイルでは、気づいてから停止まで 200 フィート必要です。これは、市内のおよそ半ブロックに相当します。

400 フィート前方が見えていなければ、時速 50 マイルでは安全に走行できないことになります。200 フィート前方が見えていなければ、時速 30 マイルでも安全に走行できないかもしれません。前方に物体が見えた時には手後れになり、衝突を避けられない恐れがあります。

次に、あなたの周囲がよく見えなくなるような物や状況、またその場合の安全運転のヒントを挙げます。

夜間 - 夜間はあたりが見えにくいものです。日中と比べて、夜間は、物体に接近しないと見えるようになります。現在地から、ヘッドライトで照らして見える距離内で停止できなければなりません。ヘッドライトをつけると、およそ 400 フィート先まで見えます。この距離内で停止できる速度、または時速およそ 50 マイルで走行します。

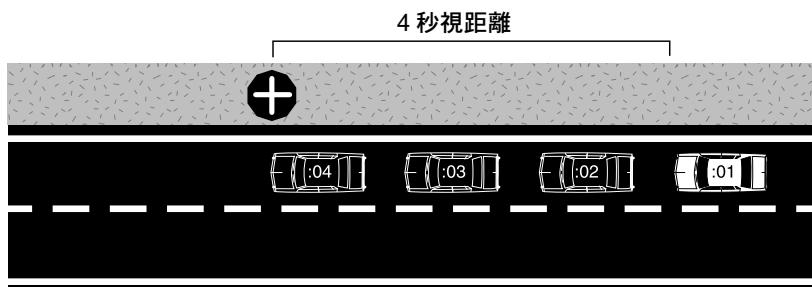
雨、霧、または雪 - 大雨、吹雪、あるいは濃い霧になったときは、およそ 200 フィート以上先が見えないかも知れません。それ以上先が見えないときは、時速 30 マイル以上で安全運転できません。土砂降りのときは、運転するには視界が悪すぎるかもしれません。このような場合は、道路脇の安全な場所にそれで、雨が止むまで待ちます。

坂道やカーブ - 坂道やカーブでは、たとえその道を何度も走行したことがあっても、その向こう側に何があるかわかりません。坂を越えたところやカーブの向こう側に、エンストした車両が停めてあつたら、あなたは停止できる状態でなければなりません。向こう側に何があるかわからないような坂道やカーブのところに来たら、減速して、必要なときに停止できるようにします。

駐車中の車両 - 道路脇に駐車してある車両は、あなたの視界を妨げるかもしれません。また、駐車してある車両から、または駐車してある車両と車両の間から、人が出てくるかもしれません。駐車してある車両との間には十分スペースを取ってください。

視距離のルール - 常に安全に停止できる速度で運転します。異なる状況において、速度を出し過ぎているかどうかを知るには、「4秒視距離ルール」を実行します。前方がはっきりとみえる距離内の、一番遠くに静止している物体（標識や電柱）を目印にします。次に、「one-one-thousand, two-one-thousand, three-one-thousand, four-one-thousand」と数えます。「four-one-thousand」と言い終わるまでに、目印の物体のところに到達したら、減速する必要があります。視距離の規則に対して、速度を出しすぎているからです。

また、4秒視距離ルールは夜間にも実行し、ヘッドライトで照らした距離以上に速度を出さないよう注意します。



制限速度 - 制限速度に従います。制限速度は、道路の設計や道路を通行する車両の種類に基づいて、設定されています。突然車が飛び出してくるような路地やドライブウェーなどドライバーから見えない状況や、交通量も考慮に入れられています。

ただし、制限速度は、理想的な状態を考えて示してあることを忘れないでください。路面が濡れていたり凍結している場合、周囲がよく見えなかつたり、あるいは交通渋滞がおきている場合には、減速しなければなりません。たとえ標識上の制限速度で走行していても、このような状況においては、スピード違反切符を切られます。

スペースを共用する

道路は、常に他人と共にしなければなりません。あなたと他の人の間に、距離を置けば置くほど、非常事態に反応する時間が持てます。このスペースは安全クッションのようなもので、スペースが広いほど、より安全に走行できます。このセクションでは、運転中に十分なスペースを確保する方法を説明します。

前方のスペース

後部追突は、たいへん頻繁に発生します。先行車との車間距離が短すぎると、先行車が急に減速したり、停止した場合、停止に必要な時間が十分ありません。時速 30 マイル以下で運転しているときは、車間距離が 2 ~ 3 秒あれば十分かもしれません、それ以上の速度で運転している場合は、「4 秒ルール」を使います。

- 先行車の後部が標識、電柱、またはその他の静止している物体を通り越すのに、注意します。
- あなたが、その物体のところに、到達するまでの秒数を数えます。（「one-one-thousand、two-one-thousand、three-one-thousand、four-one-thousand」）
- 数え終わるまでに、あなたがその目印を通過したら、あなたは先行車に接近しすぎています。
- その場合は減速し、別の目印を使って秒数を数えて、新たに前方の車間距離を調べます。4 秒以内で後続しなくなるまで、このステップを繰り返してください。

場合によっては、前方にこれ以上の車間距離が必要になることもあります。次のような状況においては、安全運転のために、より車間距離を取る必要があります。

- **滑りやすい路面** - 滑りやすい路面では、停止するまでにもっと距離が必要なため、前方の車間距離を、より大きく取らなければなりません。先行車が急停車したときに、安全に停止できるよう、余分に車間距離が必要になります。

- 後続のドライバーがあなたを追い越そうとする場合 - 減速し、前方により大きく車間距離を取ります。減速すると、そのドライバーがより早く追い越しを完了できます。
- 自動二輪車の後ろを走行しているとき - もし自動二輪車が転倒したら、そのライダーを避けるために、余分な距離が必要となります。濡れた路面、凍結した路面、砂利道、あるいは、橋、すのこ状の鉄板、路面電車や普通電車の線路などの金属の表面を走行するときは、転倒する確率が最も高くなります。
- あなたの車両が見えないドライバーの後ろを走行するとき - トラック、バス、バン、あるいはキャンピングカーやトレーラーを牽引する車両などのすぐ後を走行していると、それらのドライバーからは、あなたの車両が見えないかもしれません。あなたが後続しているのを知らずに、急停車する可能性があります。また、大型車両は、あなたの走行する前方の視界を妨げてしまいます。車間距離を大きく取ると、前方がよりよく見えるようになります。
- 積載物が重いとき、またはトレーラーを牽引しているとき - 余分な重量のため、あなたの車両が停止するまでの距離が長くなります。
- あなたの前方がよく見えないとき - 夜間や、悪天候で前方がよく見えないときは、前方の車間距離をより大きく取る必要があります。
- 後続車があなたに接近しすぎている場合 - 後続車があなたに接近しすぎている場合は、その距離を広げます。そうすると後部に追突されずに停止できるようになります。
- 緊急車両の後ろを走行しているとき - パトロールカー、救急車、および消防車の運転には、もっとスペースが必要です。緊急車両の後ろには最低 500 フィートの距離をおきます。
- 踏切に接近しているとき - 踏切では、公共輸送用バス、スクールバス、または危険物積載車両など、踏切で一旦停止をしなければならない車両の後ろに車間距離を大きく取ります。
- 坂道や上り傾斜のある道路で停止するとき - 坂道や上り傾斜のある道路で停止するときは、余分に車間距離を取ります。先行車が前進するときに、バックしてくることがあります。

後方のスペース

後続のドライバーとの間に安全な車間距離を維持するよう、一定速度を保ち、方向転換の際には前もって合図します。

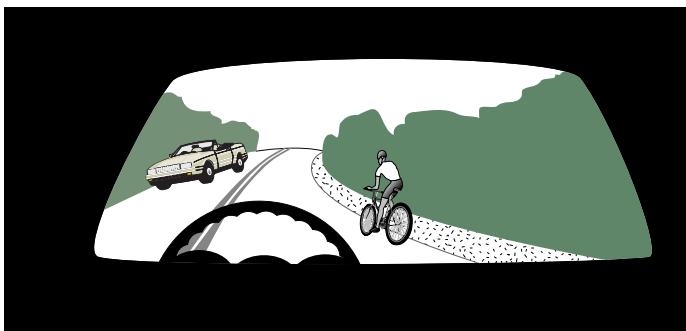
- 同乗者の乗り降ろしの為の停止 - 他の車両から離れ、安全なところで停止します。
- 縦列駐車 - 縦列駐車の際に後続車がある場合、方向指示器を出してから、駐車したいスペースの横にいったん車を停め、後続の車両を先に通過させてから駐車します。
- 低速で運転する - 他の車両を減速させるほど低速で運転しなければならないとき、安全を確認してから道路脇に寄って、他の車両があなたの車両を追い越せるようにします。場所によっては、退避所を設けた2車線の道路があります。また、追い越し車線を設けた2車線道路もあります。
- 後続車がぴったりついて運転しているとき - 後続車があなたに接近しすぎている場合、右車線があればそちらに車線変更します。後続車があなたに接近しすぎているとき、右車線があればそちらに車線変更します。右車線がなければ、前方が空くまで待ってから徐々に減速します。こうすることで、あなたに接近しすぎているドライバーに、あなたを越えて走行するよう促すことができます。ただし、車間を取るように促すために急に減速すると、後部に追突される確率を高めることになるので、急な減速は、してはいけません。

左右のスペース

方向転換や車線変更ができるよう、車両の左右にスペースを保つことが必要です。

- 複数車線の道路では、他の車両、特に大型トラックと並んで運転することは避けます。あなたとの車線ギリギリを走行したり、車線変更してあなたに接近する車両があるかもしれません。他の車両より、加速するか、減速します。
- 対向車との間にできるだけスペースを保ちます。2車線の道路でセンターラインのギリギリのところを走行してはいけません。通常、あなたの車線の中央を走行するのが最も安全です。

- 2車線以上の道路で進入してくる車両のために、スペースをあけます。あなたの隣の車線に車両が走行していないければ、車線変更してください。
- あなたと、駐車してある車両の間に余分にスペースを保ちます。駐車してある車両から人が出てきたり、車両の間から人が出てきたり、また駐車してある車両が移動を始めることもあります。
- 停車している救急車両やパトロールカーのそばを通過する際は十分注意します。4車線以上あるハイウェーでは、車線変更し、救急車両の隣りの車線を開けます。車線変更ができない場合は、減速します。
- 歩行者や自転車に乗った人、特に子供に対して余分にスペースを保ちます。何の合図もなく、急に車道に飛び出していくことがあります。歩行者や自転車に乗った人と同じ車線を走行してはいけません。隣の車線に入って、安全に追い越せるまで待ちます。
- 2つの危険な状況下で臨機応変に行動します。たとえば、対向車と駐車してある車両の間を走行している際、その中間を走行します。一方の危険性がより高ければ、そちらの方に余分にスペースを取ります。例えば、トラクタートレーラーが対向してきた場合は、その車両が通過する側に余分にスペースを取ります。
- できれば、危険な状況を1つずつ回避します。たとえば、自転車を追い越そうとしている時、同時に対向車が接近していれば、減速して対向車が通過するまで待てば、自転車との間にスペースを取ることができます。



合流するときのスペース

他の走行車両と合流するときは、常に約4秒の距離が必要です。4秒の距離の真ん中に入ると、あなたと後続車の間には2秒の距離しかありません。車線変更や、道路に進入する場合、または他の車両が走行する車線と合流する場合には、常に4秒の距離が必要です。

- 車間距離の短いスペースに進入しようとしてはいけません。狭い車間距離がさらに狭くなるのに時間はかかりません。安全な、スペースの十分ある車間に進入します。
- 数車線を横切る場合は、1車線ずつ横切れます。階段を1段ずつ上がったり降りたりするのと同様に、1車線ずつ車線変更する方が安全で簡単です。
- 他の車両があなたの車線に合流しようとしている場合、その車両にスペースを与えるために、安全であれば他の車線に移ります。

交差または進入時のスペース

道路を交差するとき、向こう側まで到達するために、交差する交通の途切れが十分なければなりません。道路に進入するときは、まず右折／左折を行なってから加速できるのに必要なスペースが必要です。

- 道路を交差するとき、向こう側まで到達するために、交差する交通の途切れが十分なければなりません。途中で停止しても安全なのは、あなたの車両が十分入れるぐらいの中央分離帯がある時だけです。あなたの車両の一部でも車道に突き出すようであれば、分離帯で停止してはいけません。
- 左折の際は、他の車両や歩行者が、進入路をさえぎっていないことを確認します。進入路に他の車両や歩行者などの障害物がなくなるまで、他の車両があなたの車両に接近してくる車線で待つことは危険です。
- あなたの進行方向をさえぎる車両がある場合は、信号が青でも、交差点に進入してはいけません。交差点の中で待っている間に、信号が赤になってしまふと、他の車両が通行できなくなります。交差点で車両の通行をさえぎると、違反切符を切られることがあります。

- 他のドライバーがあなたとスペースを共用するとか、あなたにスペースを譲るとか仮定してはいけません。たとえば、接近してくる車両の方向指示器が点滅しているからといって、それを当てにしてはいけません。そのドライバーは、あなたの車両を通過してから方向転換するつもりかもしれませんし、あるいはすでに方向転換して、指示器を切るのを忘れているだけかもしれませんからです。自動二輪車の多くは、方向指示器が自動的に切れないので、特に注意が必要です。他のドライバーが実際に方向転換し始めるまで待ち、それから行動をとります。
- 踏切を横切るときは、線路上で停止する必要がないことを確認します。

追い越しに必要なスペース

追い越し可能の標識や路上のマークがあるときは、常に安全に追い越しできるかどうか判断する必要があります。一度に数台の車両を追い越せる時間があると過信してはいけません。安全第一です。一般的な規則として、追い越しは一度に1台だけです。

- 対向車 - 時速55マイルでは、他の車両を追い越すには約10秒必要です。対向車と追い越しのできる視距離に10秒のギャップが必要です。安全に追い越しのできるスペースがあるかどうかを判断しなければなりません。2車線道路で他の車両を追い越すとき、近づいてくる対向車両の最低200フィート手前で道路の右側にもどらなければなりません。

時速55マイルでは10秒間に800フィートを超える距離を移動し、対向車も同様に移動します。これは、安全に追い越しをするには、あなたには1600フィートを超える距離、またはおよそ1/3マイルが必要だということです。これほど距離があると、対向車の時速を判断するのは困難です。対向車が、実際の速度よりゆっくり接近しているように思えたりします。

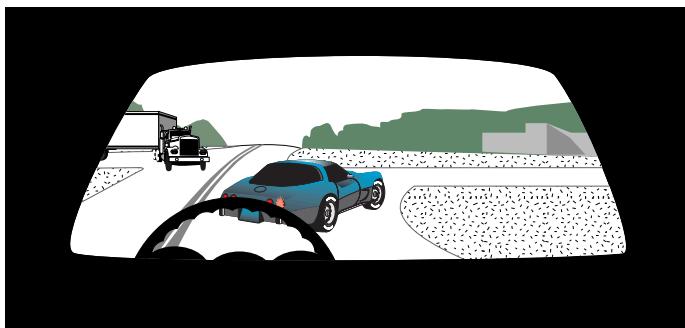
遠くに見える車両は、概して、まるで静止しているかに見えます。事実、対向車が実際に接近しているのが見えたら、あなたにとっては近すぎて、もう追い越しはできません。確かでない場合は、対向車が通過し、十分スペースが取れるまで待ちます。

- 坂道やカーブ - 前方の視界は距離にして最低 1/3 マイルもしくは時間にして約 10 秒なければなりません。カーブや坂道で視界がさえぎられているときは、常に、見えないところに対向車が通行中であると仮定します。坂道やカーブまでの距離が 1/3 マイルない場合は、追い越しを開始してはいけません。
- 交差点 - 進入または交差しそうな車両のある道路での、車両の追い越しは危険です。このような場所は、交差点、踏切、およびショッピングセンターの入り口などです。追い越しの最中は、歩行者、車両、または電車が、あなたが追い越している車両にさえぎられてよく見えないことがあります。また、あなたが追い越しに利用する車線へ右折進入しようとする車両のドライバーは、そこにあなたがいるとは思っていません。そればかりでなく、あなたの方を見ないで右折するかもしれません。

大型トラック、バス、およびトレーラーを牽引する車両は大きくスイングし、方向転換の際にセンターラインを横切らなければならないことがあります。交差点ぎりぎりのところで停止したり、このような車両を、特に右側から追い越してはいけません。

- 車線制限 - 追い越しを始める前に、路面の状態や、他の車両があなたの車線に進入てくるような交通状況に注意して、前方を見ます。次のような状況で、追い越しに必要なスペースを失うことがあります。

- 歩行者または自転車に乗った人が道路のそばを通行している。
- 幅の狭い橋またはその他の車線の幅が狭くなるような状況。
- 路面に凍結した箇所、深い穴、あるいは障害物などがある場合。



- 元の車線に戻るためのスペース - 走行車線に戻れるだけのスペースがない限り、追い越しをしてはいけません。他のドライバーがあなたのためにスペースを空けてくれると仮定してはいけません。
- 踏切 - 前方に踏切がある場合は、追い越しをしてはいけません。

あなたの車両と、追い越した車両の間に、十分スペースがあることを確認して、走行車線に戻ってください。バックミラーで追い越した車両のヘッドライトが両方とも見えたら、走行車線に戻っても安全です。

自転車とのスペース

道路上の自転車の安全は、車を運転している人と自転車に乗っている人の双方の責任です。自転車に乗っているすべての人にも、車を運転しているドライバーと同じ権利、義務、責任があります。交通法に従わない場合、ドライバーも自転車に乗っている人も、違反チケットを切られることがあります。

自転車と道路を共用する - アメリカで毎年、39,000人を越える人が自転車に乗っている時に負傷または死亡しています。ドライバーも自転車に乗っている人も、下記の州の交通法を理解し、従えば、皆が道路を安全に使えます。

- 路上に横断歩道の印が記されているかどうかにかかわらず、自転車が道路を横断中で、あなたの走行道路から 1 車線以内にいるとき、停止しなければなりません。(通行権のセクションの図を参照)
- 道路を横断するために歩道を横切る場合、ドライバーは歩道を走行中の自転車に道を譲らなければなりません。歩道または横断歩道を走行中の自転車には、歩行者と同じ権利と義務があります。地方により自転車が部分的に歩道を走行できない場合があります。

- 自転車専用レーンは白い実線で記されています。自転車専用レーンを走行中の自転車に道を譲らなければなりません。右折 / 左折する時、路地、私道、ドライブウェーへの出入りの時、または歩道の縁のそばに駐車するために自転車専用レーンを横切る時以外は、自転車専用レーンを運転してはいけません。自転車専用レーンには駐車してはいけません。
- 交差点では、他の車のドライバーに道を譲る時のように、自転車に乗っている人も道を譲らなければいけません。
- 自転車に追いつき、追い越すときには、最低 3 フィート (1 メートル) のスペースが必要です。
- 右側の路肩を歩いている歩行者または自転車専用レーンを走っている自転車を追い越す場合は、確実に接触しない距離を開けて、その左側から追い越します。完全に追い越したことが確認できるまで、道路の右側には戻らないようにします。
- 道路、路肩、または自転車専用レーンの幅や状態が危険な場合、反対方向から歩行者または自転車が来たら、道路の左側は走らないようにします。
- 歩道の縁に駐車する時は、ドアを開ける前に、車、自転車、歩行者がいないことを確認します。
- 自転車は車道、道路の端、自転車専用レーン、または歩道を走行する選択ができます。自転車は歩道内や横断歩道内では歩行者に道を譲らなければなりません。歩行者を追い越すときは、ベルを鳴らして知らせます。
- 自転車は、違法の標識がない限り、フリーウェーやハイウェーの路肩を使用することもできます。
- 自転車は、道路のできるだけ右側に近く、安全な所を、交通の流れに沿って走ります。左折／右折の前や左折／右折をしている間、あるいは他の自転車や車両を追い越す時に、左へ移動することが許されています。フリーウェー以外の一方通行の道路では、自転車は、安全であれば道路のできるだけ左側近くを走ってもかまいません。
- 自転車では、右折左折する前にハンドシグナルを行わなければなりません。
- 自転車に乗っている人と同乗者には、それぞれの座席がなければいけません。

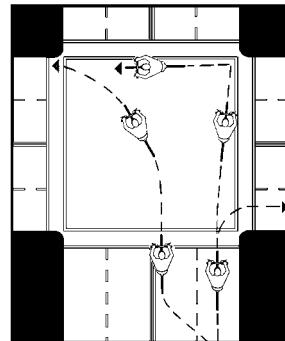
- 自転車に乗っている人は、他の車両につかまつたり、引っ張られたりしてはいけません。
- 自転車専用レーンでは、自転車は複数の列で走行してもかまいません。公道では、1列または2列で走行できます。
- 自転車に乗っている人は、片手がいつもハンドルを握っていなければ、荷物を運んではいけません。
- 夜間に自転車に乗るときは、500 フィート先から見える白いヘッドライトと、600 フィート後ろから見える赤いリフレクタを自転車に装備しなければいけません。赤いリフレクタの他に、点滅するテールライトや赤く点灯するテールライトも使用できます。
- 自転車には、乾いた、平らな、きれいな舗装道路でブレーキをかけたときに、タイヤが止まるようにブレーキが装備されていなければなりません。

州法に加え、下記のことを実行することにより、車を運転している人と自転車に乗っている人のけがや衝突事故を減らすことができます。

- 子供の指導 - 親は子供に交通安全および安全な自転車の乗り方を教える責任があります。子供は成人と違い、わきをよく見ることができなかつたり、動いている車両の速度や距離を判断できず、また危険感覚が欠けていることがあります。いつも自分で確認することが何より大切であることを、繰り返し教えてください。
- 自転車を探す - 交差点での進入や左折 / 右折の前には、交差点をさっと見て、必要であれば自転車に道を譲ります。車線変更、左折 / 右折、バックするときは、通常の視界以外もよく見て、自転車がいかどうかを確認する必要があります。
- 自分の自転車が安全であることを確かめる - ペダル、シート、ハンドル、ブレーキは常に良い状態で、きちんと作動していること。あなたの自転車が安全かどうか自転車屋で確認してもらえます。

- 全ての交通法に従う - ほとんどの自転車と車の衝突事故は、交通法の違反が原因です。自転車に乗っている人は、交通法に従うことにより、ドライバーに、いつ、どちらの方向に行くか教えることになります。ドライバーは自転車に適応される法律を知る責任があります。
- 自転車用ヘルメットをかぶる - CPSC, Snell, または ATSM 認定のヘルメットは全ての自転車に乗る人に、推奨されています。自転車が関係した死因のほとんどは、頭の怪我です。ヘルメットは、頭にしっかりと合うようにかぶり、きちんと調節して使用しないと、その役目を果たしません。ヘルメットのひもをほどかずに脱げるようなら、調節が必要です。事故でヘルメットがへこんだりしたら、新しいヘルメットが必要です。
- 目立つものを身につける - 明るい色または蛍光色の服装やアクセサリを身につけ、ヘルメットと自転車には反射テープを貼ってください。
- 自分の行動を他の人が推測しやすいように、かつ、防御的に走る - パーキングレーンを縫うように走ることは避けます。駐車している車のドアが開いて道が遮られないようにするために、駐車している車と自転車の間に 3 フィートのスペースを取ります。
- 危険物がないか路上をさっと見る - 濡れた路面、凍結した路面、薄暗い部分、排水溝、穴、線路に注意し、状況に合った速度で走行します。道路に進入する場合や道路を横断する場合は、常に歩行者や走行車両が優先します。
- 自分の行動に責任を持つ - グループで自転車に乗っているときは、前の自転車に続くのではなく、自分の行動に気をつけます。
- 交通の流れに逆らわない - 車を運転している人は、間違った側を走る自転車がいるかどうか見たり、そのような自転車がいるとも思っていません。
- まっすぐ走る - できるだけまっすぐに、交通の右側を走ります。駐車中の車のそばでは、車のドアの幅の距離を空けます。
- 右側から追い越さない - 交差点では車の右側から追い越してはいけません。右折する車のドライバーが、右側から追い越してくる自転車を確認しないかもしれません。

- 道路の脇から出てくる車に気をつける - 自転車に乗っている人がドライバーの目を見ていても、ドライバーには自転車が見えていないかも知れず、自転車の前に出てくるかもしれません。
- 右折 / 左折 - 左折のときは、自転車は左車線または左折用車線を使用します。または、右車線にいたまま道を横断し、右のコーナーで止まります。自転車は交通の流れに従って進んでも、信号が青に変わったときに渡ってもどちらでもかまいません。
- 背後の道路をさっと見る - バックミラーを使っていても、バランスをくずしたり、左に曲がったりせずに、肩越しに後ろを見れるように練習します。
- 両手はブレーキをかける準備をしておく - 十分早く止まれるようにするには、両手が必要です。雨の日や濡れた道では、停止に余分の距離を持つようにします。ブレーキは濡れていると、ちゃんとかかるないかもしれません、タイヤはより一層スリップしやすくなります。
- 犬に気をつける - 犬は車輪や脚が回るのが好きです。犬が自転車を追いかけ始めたら、無視するか、しっかりととした大きな声で、「NO!」とどなります。それでもまだ犬が止まらないようであれば、自転車から降りて、自転車をあなたと犬の間に置きます。



特殊な状況でのスペース

特定の車両や道路利用者には、余分にスペースが必要です。以下にその例を挙げてあります。

あなたの車両が見えない人 - あなたの車両が見えなければ、あなたに気づかずにその走行路に進入してくる可能性があります。あなたの車両が見えない人の例を挙げます。

- 建物、木、他の車両で視界がさえぎられている交差点やドライブウェーにいるドライバー。
- バックしながら道路に進入してくる場合や、バックしながら駐車スペースに入ったり出たりする場合。
- ウィンドウが雪や氷で覆われていたり、あるいは蒸気で視界が悪い車両のドライバー。
- 顔を覆うように傘をさしていたり、帽子を深くかぶっている歩行者。
- 交通の流れと同じ方向に歩いている歩行者。あなたの車両に対して、背を向けてしているので、あなたの車両が見えません。

注意を怠っている人 - 人からあなたの車両が見えていても、注意を怠っているかも知れないと思われる場合は、余分にスペースを空け、更に注意を払います。次のような人は、注意を怠っているかもしれません。

- 配達業者
- 建設工事作業者
- 子供
- 自己の運転に注意を払っていないドライバー

判断に迷っている人 - 判断に迷っている人は危険です。次のような場合がそれに該当します。

- 旅行者などのどこに向かっているのかわかっていない人
- 理由なく速度を落としているドライバー
- 道の標識や住所を探しているドライバー

トラブルに巻き込まれているドライバー - 他のドライバーが、あなたを追い越す際にミスをした時、それ以上、事態を悪化させてはいけません。そのドライバーが安全に走行車線に戻れるように、減速します。他のドライバーが、突然、車線変更が必要になったら、減速し、合流させます。このようなマナーで、交通の流れをなめらかに、かつ安全に維持することができます。